



水前寺成趣園

「砂取校区は、校区住民同士が深く交流している地域だと思えます」と語るのは、砂取校区自治協議会の山下敏夫会長です。校区をあげて行う砂取まつりや、高齢者の交流を目的としたいきいきサロン活動、防犯活動など、各町

内自治会や消防団、民生委員、児童委員、社会福祉協議会、地域コミュニティセンターなどが連携して、校区全体の住民同士の交流促進を目的にさまざまな活動を行ってきました。平成18年度には、校区内の名所や文化、環境を歌詞に織り込んだ「砂取音頭」を作成。住民が校区を誇りにする拠り所の一つになっています。

「砂取はいいところ」と言われたい

水前寺

成趣園、熊本
洋学校教師ジ

町内
このままでは地域が危ない
まず、みんなで、動こう

に水前寺成趣園とその周辺の商店街

「マンションも多くなり、新しい方たちにも『砂取校区はいいところですね』と言ってもらえるような場所にしたいと思っています。そのため、賑やかで多くの人が訪れる地域であると同時に、落ち着いて過ごせる安全安心のまちづくりも目指しています」。

をもつ第6町内。水前寺成趣園近くに住み、その変遷を見てきたのが砂取校区第6町内の自治会長を務める永野陽子さんです。「水前寺公園の参道の人通りは、年々少なくなっています。その様子を見ていて、地域の賑わいは、やはり、水前寺公園を元気にすることからではないかと考えました。地域住民の中には、昔

に比べ水前寺公園が遠くなったと感じている方も多いようです。でも、公園が元気になって、たくさんの人が来てくれれば、商店街や周辺の文化財にも、その元気が伝わると思っています。水前寺公園がまた、みんなの誇りになって、まちのシンボルになってくれたら」と永野さんは語ります。「そのため、できることはきつとたくさんあるはず。みんなの力をあわせて、まず、動いてみようと思っただんです」。



上江津湖畔にある芭蕉園。大人の背丈よりも高い芭蕉の林があり、南国の不思議な風景を作り出している

お殿様が愛でた名園。
今、まちづくりの核になる



講演会やバザー、地域住民によるステージなどで賑わう砂取まつりは、校区最大の行事